

図1 ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの関係

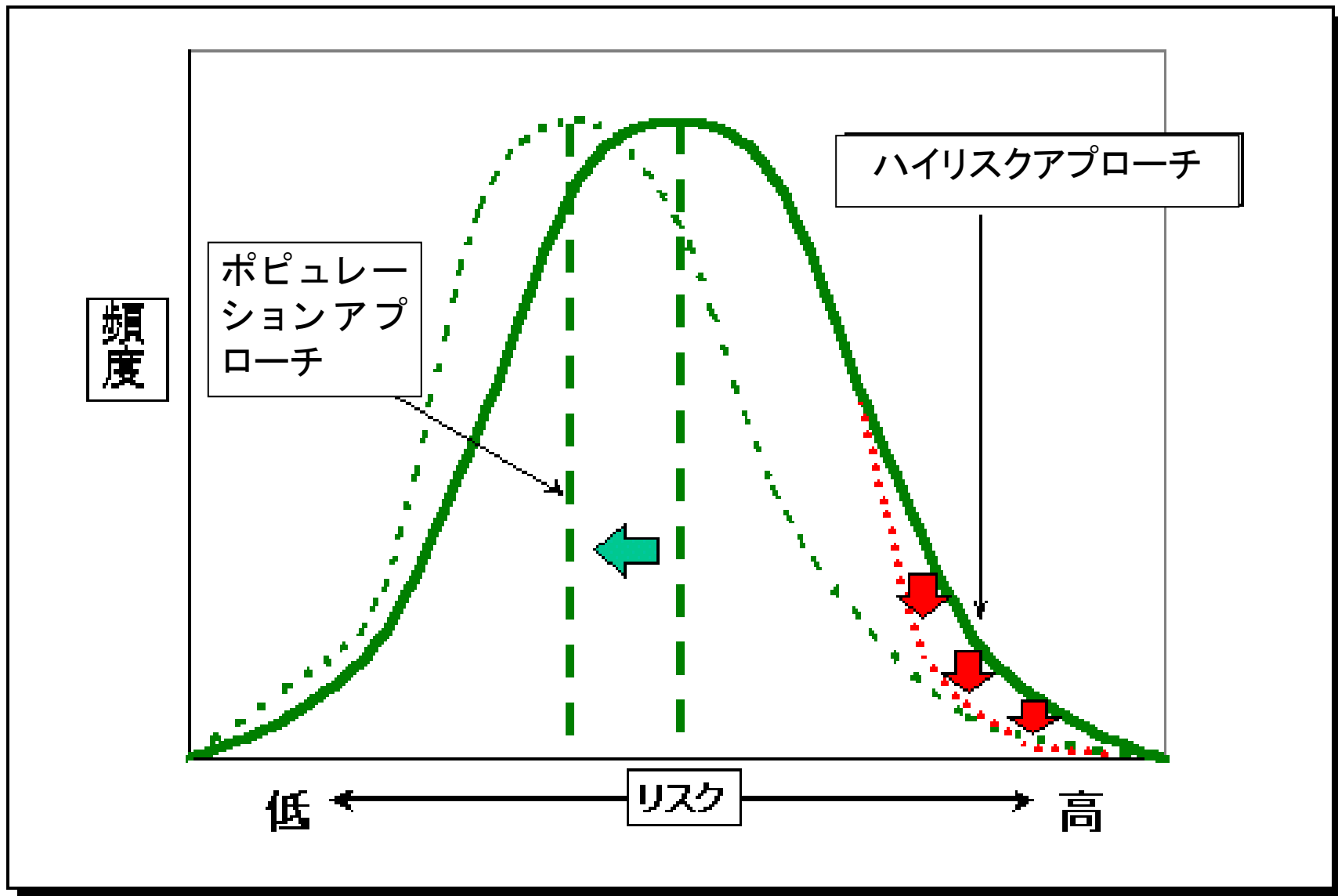
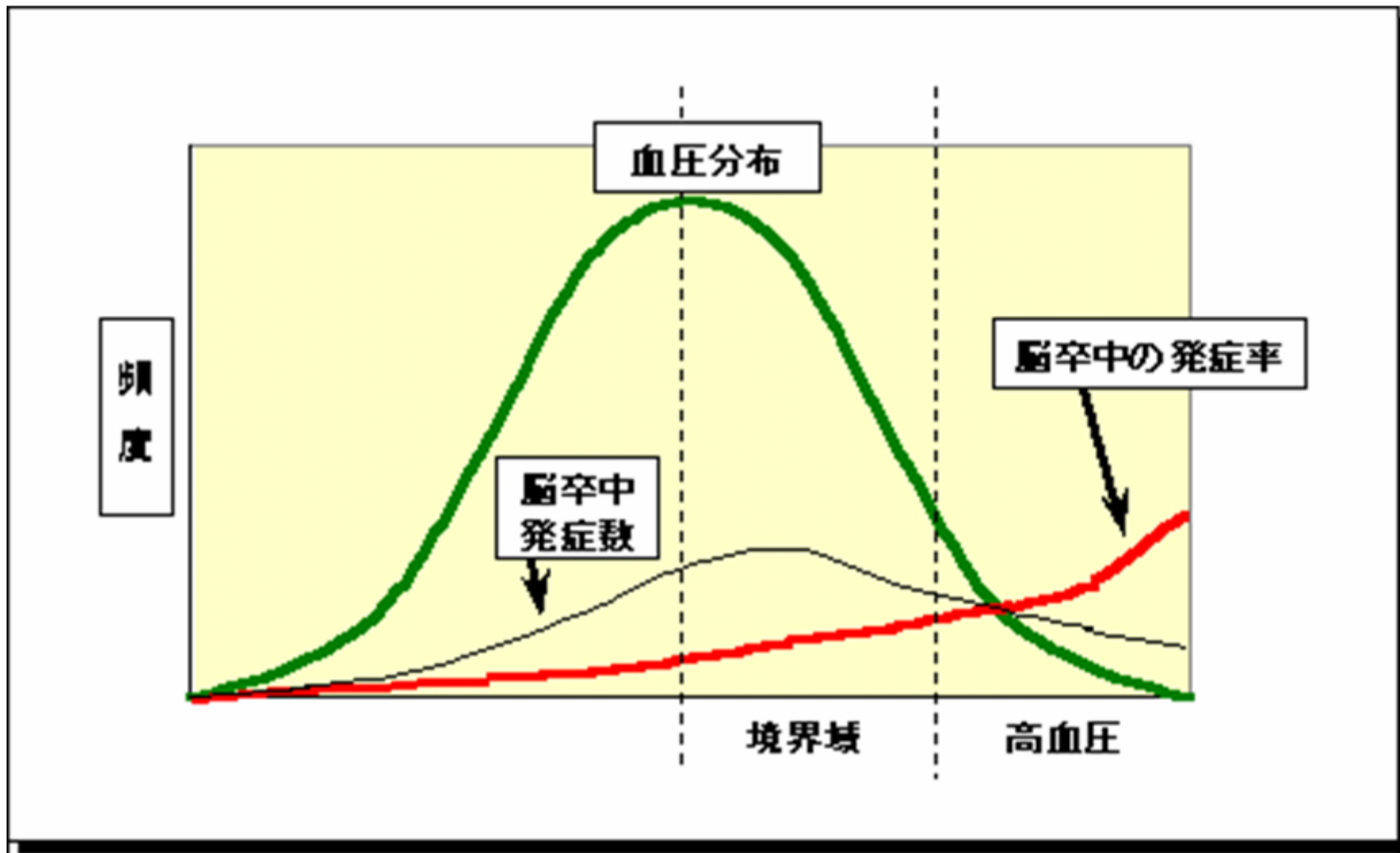
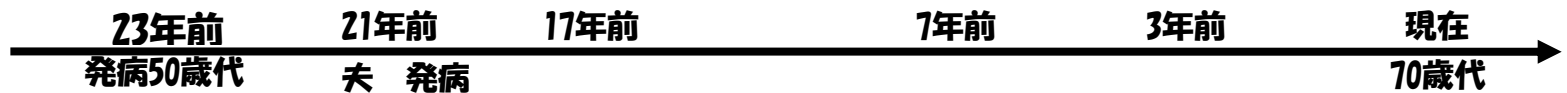


図2 血圧と脳卒中の関係：個人の発症率(リスク)と集団からの発症数





血糖値178
 体重68.4kg
 標準体重 47.5kg
 尿糖 (3+)
 ↓
 糖尿病と診断

食後血糖
 353
 尿糖4+

血糖値90~110
 HbA1c 7.0
 尿糖 (-)
 体重62kg

内服開始
 入院

何回か入院

インスリン開始
 夫・内服開始

↑↑↑
 インスリンの増加

・困ったなあ
 ・甘い物が食べられ
 なくなってしまう
 ・でもそんなに深刻
 ではなかった

薬を飲んで
 いるから大
 丈夫

抵抗なく
 使い始め
 た

悪くなっ
 たのかな

常に合併症の
 恐怖あり。で
 も注射してい
 るので少し安
 心

月1回の受診

夫といる時間が
 増え間食が増え
 る。ごちそうが
 多くなる

つい食べ過ぎてしま
 う事が多かった。
 お料理好き！
 二人共食べる事が好
 き！

血糖自己測定
 定期受診
 食事・運動
 →いつも心が
 けている

生活習慣病の事例より

- 経過が長い
- 自覚症状がない
- 自分の状態をつかんでいない
- 食については「こころがけ」レベル
- 医療が頼り→悪化している
- 習慣を改善するためのサポートが無い
- 薬をのめば治るという常識
- 仕事やつきあいの関係がある

ポピュレーションアプローチを 保健事業に

- *「糖尿病と言われるのもいや、知られるのもいや」「糖尿病だとだめな人というレッテルを貼られるようだ」
- *「歩いていると暇と思われる」「歩く時間があれば草引きでもすればいいのに」
- *「病気になったら医者にかかって薬を飲めば治る」

このような固定観念や価値観、認識を変えるためのアプローチ

生活習慣病予防のためのポピュレーションアプローチ

- **ポピュレーションアプローチとは、多くの人々が少しずつリスクを軽減することで、集団全体としては多大な恩恵をもたらす事に注目し、集団全体をよい方向にシフトさせることである。生活習慣病におけるポピュレーションアプローチとしては、「健康づくりの国民運動化」「全住民を対象とした活動」として、メタボリックシンドロームの概念の定着や具体的な施策プログラムの提示などを行い、また、産業界も巻き込んだ戦略的展開等が挙げられている。**
- **以上をふまえて、地域を基盤とした具体的な実践活動として、一定規模の人口集団を対象とした活動展開の具体的なあり方が求められているところである。従来から地域で実践されている組織的住民活動もポピュレーションアプローチの1つの方法論として取り上げると同時に、他の具体的なあり方を探求するために、より多くの人々への健康づくりを期待する取り組みを広く事例収集することを主旨とする。**
- **なお、専門職者の関わりについては、規定しない。活動期間としても限定せず、現在取り組みが継続していることを要件とする。**

事例収集

- 該当地域の現状把握
- 事業の目標設定
- 事業実施体制・人員投入
- ポピュレーションアプローチの有効性
- 直接効果
- 間接効果
- 裨益効果(住民)
- 事業の持続可能性
- 事業の総合的評価
- 課題があった場合の改善点など

選択された10事例(その1)

- 地域保健と職域保健の連携を通じて、壮年期からの健康づくり支援体制の強化を図る: **連携**
- 自治協議会と行政との共同による健康づくり: **住民参加**
- ハイリスクとポピュレーションアプローチを一体化した糖尿病対策: **住民参加**
- 学校保健と地域保健の連携による子どもの食と元気づくり事業: **連携**
- 健康まちづくり推進委員会活動: **住民参加**

選択された10事例(その1)

- 健康計画に基づく健康づくり活動の推進:住民参加
- ライフステージにあわせたたばこ対策:タバコ
- 健康に配慮したメニューを提供する飲食店の登録と健康情報バンクの取り組み:事業者
- 糖尿病在宅療養者支援体制整備事業:連携
- 両親学級乳幼児健診を通じたたばこ対策:タバコ

事例検討より： 地域特性に応じた取り組みが重要

- 地域を基盤とした住民参加型の活動は有用である
- 人々のパワーを引き出す技術に熟練している
- 部分的に組織体制が構築されている
- 地域づくりと生活習慣病予防との目的の連動が曖昧である
- 大多数の健康に関心が薄い住民のモチベーションを上げ、参画していける仕掛け作りとして意図的な活動が期待される

ポピュレーションアプローチに 取り組むために

- より多くの人をカバーするしくみづくり
→組織の有用性
- 資源開発と環境整備
- 価値観の転換と健康文化の創出
→人々のつながりと地域の文脈
- 啓発・動機づけ
→ハイリスクアプローチとの統合
- 対象となる人々のパワー